

## [学会情報]

### 日本ブドウ・ワイン学会西日本地域研究会 第11回研究集会に参加して

京都府立大学大学院 角 京香

日時：2014年6月29日(日)

場所：京都大学農学部

大会プログラム

1. 西岡一洋氏(東京大学大学院農学生命科学研究科  
特任研究員)

『科学で Vineyard を Hack する！

—土壌、微生物、樹(根-幹-枝-葉)

および気象の複雑な関係性を

植物生理生態学的に捉える—』

2. 本杉日野氏(京都府立大学大学院教授)

『ブドウの水分状態を制御する栽培技術』

3. 小田滋晃氏(京都大学大学院教授)

『65th ASEV National Conference

(Austin, Texas)の報告』

第1報告 西岡一洋氏(東京大学)

植物体に挿す樹体流センサーは植物を傷めてしまう可能性があったが、SHB Sensor では薄いフィルムを巻くだけで測定が出来る。この設置法に驚くと同時に、測定器の仕組みについてとても興味が湧いた。ブドウだけでなくメロンやミカン・トマトにも使用できるという事であったので、様々な農作物に応用でき、アイデアが出れば出るほど実験の幅が広がるという印象を受けた。また、海外での取り組みとして衛星などでデータを取り、スマートフォンや PC に送信するといった技術もあるという報告もあった。このように農地全体の状況を把握することも可能となっており、

最先端の技術によって農業家がより働きやすくなるのを嬉しく思う。

第2報告 本杉日野氏(京都府立大学)

ブドウ植物体内の水の流れは、根の吸収、導管内の上昇、果実への流出入、葉からの蒸散など様々である。根からの吸水量調節は台木選択・草生栽培・灌水制限などの技術がある一方で、果実への水の流出入は摘心・側枝除去・遮光・通風遮断など、普段の栽培管理で調節できるとわかった。「水分状態を制御する」と言っても、高い技術が必要ではなく比較的簡易な方法もあるので、水分量バランスを確認しながら上手く使い分け、ブドウ栽培に取り組んでいきたい。

第3報告 小田滋晃氏(京都大学)

テキサス州で行われた 65th ASEV National Conference について写真を見ながらの報告であった。ワイン学会センター長のヘイマンさんやボルトン先生の写真を見て、2013年度の日本ワインブドウ学会でご講演頂いた事、また少しだけお話した事などが懐かしくなった。小田先生に「Japan chapter」の表彰があったり、奥田先生の尺八の演奏があったりと、アメリカにて日本をしっかりとアピールされた様子が伝わってくる報告であった。66th ASEV National Conference はオレゴン州のポートランドでの開催であり、その時の様子を今回のような報告で聞けるのが楽しみである。